

文教大学国際学部の教育成果を検討する
—— 4年間の教育から学生が得たもの ——

小林 勝 法

**Evaluating Education of the Faculty of the International Studies,
Bunkyo University**

Katsunori Kobayashi

The purpose of this survey was to clarify what the students learned in their 4-year education at the Faculty of the International Studies, Bunkyo University. The survey was conducted for 237 senior students from January to March 1993, and 84 students answered the questionnaires.

The results were as follows ;

- 1) The 75.7% of "courses from which they learned something good" are among special education courses.
- 2) The main reasons of taking such courses are about "subjects of the course" and "the personality and experiences of the teacher".
- 3) The good thing they received are "to get technical knowledge", "to develop a point of view about society or human beings", "to encounter teachers" and "to learn how to study in college".
- 4) In short what they learned in their 4-year education are "to take a international view of things", "to learn how to study" and "to communicate with others".
- 5) Things of relative importance in college life are on "association with friends" firstly. "Club activities" and "study" follow in that order.
- 6) The main requests and proposals to the faculty are about "language education", "taking varieties of licenses", "curriculum in general", and "teachers' teaching skills".

These results suggest that we could attain the aim of establishing the faculty : to teach students a practical and a interdisciplinary body of knowledge so that they can solve international or global problems.

I 目的

文教大学国際学部は1989年4月に設置された。設置の趣旨は、「国際的問題や地球的課題を解決するために必要な実践的かつ学際的な知識体系を学生に学習させ、これから起こるであろう困難かつ多様な国際的諸問題に対応し得る有為の人材の養成を図る」ことである。そして1993年4月、完成年度を迎えた。すなわち、一期生が4学年に達したのである。国際学部は上の設置趣旨に基づいて、時代の要請に応じた新しい学問の創造とその教育に力を注いできたわけであり、ユニークな学系構成やカリキュラム、教育方法を特長としている。

ところで、果たしてこのような教育がどのような成果を上げているのであろうか。筆者は、過去に学生の学園生活の実態調査¹⁾を行い、学生の学修に対する意識や実態に迫った。しかし、実施したのは一期生がまだ3年生の時であった。そこで、4年間の学士課程教育をほぼ終えつつある卒業間近の4年生を対象に実態調査を実施し、国際学部の教育の成果を検討することにした。

本研究の目的は次の2点を明らかにすることである。

1) 国際学部の4年間の教育から学生は何を学んだか。

前述した調査(国際学部学園生活調査¹⁾)によると、一期生(当時3年生)の74.9%(98人)が湘南キャンパスでの学園生活を楽しいと答えているものの、授業に対する満足度は19.9%(一般教育)~42.7%(専門教育)とあまり高くなかった。果たして、4年間の教育を総括すると彼ら一期生は何を学んだと言えるのであろうか。そして、学部設置の趣旨が実を結んでいるのであろうか。これを明らかにすることは、今後の国際学部の教育を計画する上で重要である。

2) 漢方薬のように即効性はない科目がどう評価されているか。

一般教育のように授業の意義が理解されにくい科目は、学生の学習意欲も高くはなく、授業評価も高くない。しかし、学習しているときには、現実的な利益は目に見えて表れることはないかもしれないが、時間がたつにつれて、じわじわと効果を表すかもしれない。例えば、一般教育は専門教育を履修してからの方が学習効果が表れるかも知れない。したがって、4年生は一般教育に関してより総合的な評価ができるものと期待できるであろう。

II 方法

学生に4年間の教育をふりかえり評価させるに際し、「専門教育科目はどうか」などと一般化して回答を求めるのではなく、具体的な授業を想起させ、その授業で「何を学んだか」について答えさせることにした。このような調査は和光大学で既に行われており、本研究はそれ参考にしている²⁾。

調査内容は、「自分にとって得るところのあった授業」についての他、「国際学部で学んだこと」や「大学生活で比重の高かった活動」、「大学の授業への要望・改善への提案」などである。詳しくは、資料1の調査票を参照されたい。

調査対象は卒業予定の4年生全員237人で、質問紙配布回収法によって調査した。調査票は、ゼミナールの指導教員を通じて配布した。調査期間は、1994年1月12日から3月19日である。

有効回答数は84人(35.4%)で、その内訳は表1に示したとおりである。

表1 有効回答者数内訳

	男子	女子	計
国際文化	4	10	14
国際関係	18	18	36
国際経済	16	18	34
全体	38	46	84

Ⅲ 結果

調査項目の順に結果を述べる。

1. 「自分にとって得るところのあった授業」

「今まで受けた授業のうちで、自分にとって得るところのあった科目名と受講した学年を専門、一般、語学、体育等を問わず三つあげてください」という問いに対し、合計230件(科目)の回答があった。以下、科目区分、受講年次、受講理由、出席率、得たことの順に結果を述べる。

1) 科目区分

回答のあった230件(科目)を科目区分別に分類すると、一般教育が22件、英語が20件、第二外国語が6件、日本語が0件、保健体育が8件、専門科目が47件である。

一般教育では、地理(7件)や社会学(4件)、経営学(3件)、歴史(3件)などで、いずれも人文社会系科目であった。国際学部のような人文社会系の学部における自然系科目の位置づけや教育内容・方法を検討する必要があると思われる。

英語は20件あったが、単に「英語」とだけの回答が多く(9件)、科目内容が明確でない。科目名を正確に記入しているものの中では、英語Ⅱ(LL演習)が5件と多かった。受講年次別にみると、1年次が8件、2年次が3件、3年次が9件、4年次が1件であった。

第二外国語は、フランス語(3件)と中国語(3件)であった。国際学部学園生活調査では、一期生の第二外国語に対する満足度は38.2%と比較的高かった³⁾が、今回の調査ではそのような傾向は見られなかった。

保健体育科目の8件は、「体育」とだけの回答がほとんどであった。受講年次や「授業から得たこと」から推察すると2年次の応用体育(実技)が評価されているようである。

専門科目のうち専門必修科目では、ゼミナールが25件と多く、次いで、平和論(7件)、時事英語演習(6件)である。専門選択必修科目では、経営管理(9件)や国際時事問題(9件)、国際体制論(8件)、国際関係論(6件)、欧米政治外交史(5件)、外交史(5件)、国際ホスピタリティ論(5件)等が多かった。専門選択科目では、コンピュータ実習(6件)や言語学(5件)が多い。

2) 受講理由

「得るところのあった授業」を受講した理由を尋ねた結果が表2である。

表2 授業選択の理由(複数回答可)

	①必修	②概要	③お薦	④先生	⑤時間	⑥楽勝	⑦他	計
一般教育	3	13	2	11	2	5	2	38
英語	18	0	0	1	0	0	4	23
第二外国語	4	4	1	0	0	0	3	12
保健体育	7	1	0	0	0	0	1	9
専門科目(計)	46	107	11	90	16	7	30	307
必修	32	21	2	23	0	0	8	86
選択必修	11	59	4	39	8	5	14	140
選択	3	27	5	28	8	2	8	81
計	78	125	14	102	18	12	40	389

(注) ①必修だから ②講義概要をみて ③友人・先生等から薦められて
 ④先生が面白そう ⑤時間割が空いてた ⑥単位が取りやすそう
 ⑦その他

英語と保健体育はほとんどが「必修だから」と答えており、第二外国語は、「必修だから」と「講義概要をみて」が比較的多い。一般教育は、「講義概要をみて」と「先生が面白そう」が多い。

専門科目では、「講義概要をみて」(107件, 34.9%) がもっとも多く、次いで「先生が面白そう」(90件, 29.3%), 「必修だから」(46件, 15.0%) の順である。その他の理由として、「就職に役立ちそう」が7件あった。

必修科目以外では、講義内容と教員の魅力が主要な選択理由となっている。

3) 得たこと

「どんな点で得るところがあったか」について尋ねた結果が表3である。

表3 授業で得たこと (複数回答可)

	①知識	②言葉	③方法	④見方	⑤友人	⑥教員	⑦他	計
一般教育	7	0	5	8	3	3	1	27
英語	7	15	2	3	2	4	4	37
第二外国語	0	6	0	0	1	2	2	11
保健体育	0	0	0	0	3	2	4	9
専門科目(計)	115	12	51	59	20	51	34	342
必修	31	4	15	17	15	21	14	117
選択必修	49	5	22	30	3	16	14	139
選択	35	3	14	12	2	14	6	86
計	129	33	58	70	29	62	45	426

(注) ①専門知識を得ることができた ②言葉(外来語)を修得できた
 ③研究の方法や態度を学んだ ④社会ないし人間に対する見方が変わった
 ⑤良い友人を得た ⑥教員と知り合えた
 ⑦その他

全体では、「専門的知識を得ることができた」(129件, 30.3%) がもっとも多く、次いで、「社会ないし人間に対する見方が変わった」(70件, 16.4%), 「教員と知り合えた」(62件, 14.6%), 「研究の方法や態度を学んだ」(58件, 13.6%) であった。

科目区分別にみると、一般教育では、「社会ないし人間に対する見方が変わった」と「専門的知識を得ることができた」が比較的多い。英語では、「言葉を習得できた」がもっとも多く、次いで「専門的知識を得ることができた」である。第二外国語では「言葉を習得できた」がもっとも多く、保健体育では「よい友人を得た」が比較的多かった。

専門科目では、「専門的知識を得ることができた」(115件, 33.6%) がもっとも多く、次いで、「社会ないし人間に対する見方が変わった」(59件, 17.3%), 「研究の方法や態度を学んだ」と「教員と知り合えた」(51件, 14.9%) である。その他の回答では、「資格取得に役だった」が2件あった。

さらに専門科目を詳しくみると、必修科目では、「専門的知識を得ることができた」が31件と最も多く、次いで、「教員と知り合えた」(21件), 「社会ないし人間に対する見方が変わった」(17件) である。選択必修科目では、「専門的知識を得ることができた」が49件と最も多く、次いで、「社会ないし人間に対する見方が変わった」(30件), 「研究の方法や態度を学んだ」(22件) である。選択科目では、「専門的知識を得ることができた」が35件と最も多く、次いで、「研究の方法や態度を学んだ」(14件), 「教員と知り合えた」(14件) である。

2. 「国際学部で学んだこと」

国際学部で学んだことひとことで表現させたところ、73件の回答が得られた。それらは主に3

つに分類できる。それは、「国際的視野を養えた」、「学問の方法と態度を学んだ」、「人と人とのコミュニケーション」である。順に具体例を以下に示す。なお、全回答を資料2として示してある。

1) 「国際的視野を養えた」

- 国際的視野で物事を見たり考えたりすることが出来た。またTV以外の情報を多く得ることができた。“歴史は作られている”と強く感じた。(文化学系, 男子)
- 英語を多く学んだことにより広い目で世界を見れるようになった。(関係学系, 男子)
- 国際社会の本当の意味。国際人としての考え方, ものの見方。日本人を見つめ直す。(関係学系, 女子)
- 経済や文化, 環境などについて日本だけでなく世界的な視野で, 考えられることができた。(経済学系, 女子)

2) 「学問の方法と態度を学んだ」

- 視野が広がった。研究, 発表の仕方を覚えた。(文化学系, 女子)
- レポートの書き方, ものの(時事問題などの)とらえ方。(関係学系, 女子)
- ある事実を表面的でなく深く掘り下げることによって, ちがった一面が見えてくる。物事を簡単に決めることはよくない。(関係学系, 男子)

3) 「人と人とのコミュニケーション」

- 外国人に慣れた。(文化学系, 女子)
- 相手(国・人)を受け入れる事で, 世界が広がっていく, という事。(文化学系, 女子)
- 「いろいろな人がいるんだなあ」という事(知識の面でも, 感性の面でも)。(関係学系, 女子)
- 留学生の人達がいるので, 自然と他の国の人々と話すことができる。(経済学系, 女子)

3. 「大学生生活で比重の高かった活動」

第1位でもっとも多いのは「友人との交際」(30人, 35.7%)であり, 次いで「クラブ・サークル」(23人, 27.4%), 「授業」(13人, 15.5%)である。授業の比重はあまり高くなく, 第3位までの累積でも50人(59.5%)である。(表4参照)

表4 大学生生活で比重の高かった活動 (N=84人)

	1位	2位	3位	4位	5位
友人との交際	30	26/56	15/71	4/75	1/76
クラブ・サークル	23	15/38	9/47	7/54	10/64
授業	13	17/30	20/50	22/72	8/80
アルバイト	11	13/24	20/44	16/60	12/72
趣味	5	10/15	17/32	20/52	14/66
その他	2	3/5	3/8	5/13	6/19

(注) ()内の右側の数字は累積人数

文部省の調査によれば, 「自分にとっての大学の意味」として, 第1位に「友人を得ること」(40.0%), 第2位に「専門知識を身につけるところ」(38.8%), 第3位に「自分のやりたいことができる」(35.9%)である⁴⁾。このことから, 授業の比重が高くないことは現代学生には一般的傾向なのだろう。

しかし, 本調査で参考にした和光大学では, 授業を第1位とするものももっとも多く半数近く(35/74人)を占めており, 第3位としているものまでをあわせると, 全体の90%弱となる。この

相違をどのように捉えたらよいのであろうか。

文教大学国際学部においても現代学生の一般的傾向を甘んじて受け止めるのではなく、今まで以上に教育に力を注ぐことで本来の学生に育てることができるのではないだろうか。学生が成長していく場がどこにあり、どのように成長していくのか、さらに検討する必要がある。

4. 「大学の授業への要望・改善への提案」

大学の授業への要望及び、改善への提案についての記述回答は67件得られ、大体4つに分類できる。それは、語学教育と資格取得、カリキュラム全般、授業の方法に関することである。順に具体例を以下に示す。なお、全回答を資料3として示してある。

1) 語学

- ・英語の授業は多ければいいとは思えない。量よりも質。リーダーのようなものはあまりいない。LL教室をもっと増やした方が良い。(文化学系, 男子)
- ・第二外国語が2年間で終わりなのはがっかりした。3・4年次も履修できるようにしてほしい。 (文化学系, 女子)
- ・語学は正直なところあまり身についたとはいえなかった。授業のレベルが低く、ものたりなさも感じた。(関係学系, 男子)
- ・英語の先生が、人によって大変やり方が違うので、良い先生のやり方にそろえた方が良くと思います。(経済学系, 女子)

2) 資格

- ・教職を取れるようにしてほしい。自分は教員志望だった。(文化学系, 男子)
- ・資格取得ができる授業や就職に生かせるような内容のものがはやい学年のうちから、ひらいてほしい。国際学部で何を学んだかがはっきり自覚できるようなものがほしい。(文化学系, 女子)

3) カリキュラム全般

- ・授業の内容についてはけっこうみんなよかったと思うので、あとは学生の問題だと思う。(文化学系, 女子)
- ・第二外国語の力をもっとつけたかった。2年次でとれる授業が少なすぎる。又3, 4年で面白い授業があるのに忙しくてとれないのが残念だった。特に4年生になってから面白そうな授業が多く就職活動で出られないのが残念だった。一般教養が全部つまらなかった。(文化学系, 女子)
- ・少人数で生徒がもっと参加できる授業を増やした方がいい。入学してすぐから、レポートの書き方とかの基本的な勉強の仕方を教えてほしい。(関係学系, 男子)
- ・4年での選択の授業が多いので、もっと1~3年の間に勉強できればゆっくり履修できたのに。取りたいものが他の授業と重なったり、自分のやりたいこととは関係のないものを勉強させられるようなものもあった。(経済学系, 女子)

4) 授業の方法

- ・少人数で討論を増やす。発表の仕方をたたき込む。(文化学系, 男子)
- ・一本調子で講義する先生がいるが、あれはやめてほしい。(だいこん役者じゃないんだから) もっとめりはりをつけ、訴えるような講義をしてもらいたい。(関係学系, 男子)
- ・単位を取るために出ている授業があった。今思えば時間を無駄にしたと思うぐらいひどい授

業もあった。(関係学系, 男子)

- 講義中に質問が生じた場合、すぐに学生側からの質問が出来るものをふやして欲しい。教授の一方的な話ではムズムズしまったり、眠くなってしまったりする。(関係学系, 男子)
- ディスカッション形式の授業が増えてもいいと思う。海外研修を制度化したらどうか。(関係学系, 女子)
- 第二外国語は週2～3回くらいあると良いと思う。ゼミの5限はやめた方が良い。(関係学系, 女子)
- 学生をひきつける授業をやってほしい。(経済学系, 男子)
- 各授業の内容が大ざっぱで、内容がとてもうすく感じた。特に経済系は「これ以上深くやると時間がなくなりますから、やりません」とのセリフをよく聞かされ、内容の方も、受験勉強以下という内容もありました。(経済学系, 男子)
- 専門科目でも一般教養科目の羅列といった内容の授業が多かったように感じた。2年からの専門科目に期待していたが、一つ一つの科目が他の科目とつながらず体系的に学ぶことができなかった。積み重ねがなく、専門的知識が身に付かない……、そんな感が強かったです。一年次の必修科目などは全く一般教養と変わりなく、専門科目の基礎科目にはならないと思われま (基礎科目が不備なのは)。(経済学系, 女子)
- 国際経済学系の授業は、経済学が難しくて全然わからなかった (特にマルクス経済など)。だから、もっとわかりやすい授業を考えた方がいいと思う。学生達がついてこれない。(経済学系, 女子)

IV 考察

調査の結果、学部設置趣旨の「国際的問題や地球的課題を解決するために必要な実践的かつ学際的な知識体系を学生に学習させ」ることは達成していると判断できよう。しかし、より高い教育成果を挙げることができるよう不断の検討と努力が必要である。そこで、教育課程編成と教育方法に焦点をあてて調査結果を考察し、さらに今後の課題について検討する。

1. 教育課程編成上の問題

大学設置基準第19条(「教育課程の編成方針」)には、「学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮しなければならない」と規定されている。このことを念頭に置いて、文教大学国際学部における教育課程編成上の問題について、専門教育と一般教育に限って検討しよう⁵⁾。

1) 専門教育

学部設置趣旨と密接に関連する点であり、概ね目的は達成していると判断できよう。しかし、学生の理解度に関しては自由記述回答から推察する限りでは、十分とは言えないようである。特に経済学領域でそのような回答がみられた。

また、専門領域をもっと深めることを求める意見もあり傾聴に値する指摘ではあるが、従来の学問にみられるように専門領域に細分化するのではなく、一学部一学科の特長を活かした学問体系の構築と教育の実践こそが必要である。

設置趣旨の後段部分の「これから起こるであろう困難かつ多様な国際的諸問題に対応し得る有為の人材の養成を図る」に関しては、一期生を卒業させたばかりの現時点では判断することは

きない。後述するように、卒業後の追跡調査が必要である。

2) 一般教育

今回の調査と国際学部学園生活調査の結果をみる限りでは、一般教育科目の評価は高くない。主に、低学年の学生を対象にし、大教室での授業という教育環境の劣悪さも原因しているであろうし、何よりも「漢方薬」の効き目をみるのには、4年間でも短いのかも知れない。

国公立の大学・短大6校(938人)で行った調査によると、一般教育の講義の中で自分にとって一番よかったと思う授業科目は、人文社会系学部の学生は人文系科目を、理工と医歯薬の理科系学部の学生は自然系の科目を挙げる傾向がみられたという⁶⁾。この傾向は国際学部にもあてはまるが、前述したように、人文社会系の学部における自然系科目の位置づけや教育内容・方法を検討する必要があると思われる。

そして、そもそも大学教育における一般教育⁷⁾の在り方について、見直す必要がある。その必要性について、坂井は、「一般教育が均等分散型のカリキュラムを採るかぎり、それに期待できるのは『視野の広さ』とか『幅の広い知識』であって、それ以上ではない。それ以外の教育目的(総合的判断力の開発, 基礎的研究能力の育成)を達成するには、それとは異なったカリキュラムが必要である」と述べている⁸⁾。つまり、従来の教養課程2ヶ年の教育にとどまることなく、「一般教育と専門教育を含む大学(学部)プログラムすべてに、より大きく一貫性と統合を確保するのが現代の一般教育の役割である」⁹⁾のである。

したがって、具体的には、大学での学習・研究に導入するためのスキルスタディの教育や高校教育との落差を埋めるための補償教育、そして、4年一貫教育の理念を実現するために高学年履修の科目を開設することなどが必要となろう。

2. 教育方法上の問題

「得るところがあった授業」について、特に印象に残ったことを自由記述で求めたところ、教授法の工夫と教員の姿勢・人柄に関する回答が多かった。具体的には、「少人数クラスであった」や「討論ができた」、「スライドを多用した」、「熱心に教えてもらえた」などの他、教員の経歴と経験に関するものであった。

この結果は、前述の先行研究⁶⁾での良い授業の特徴と合致している。一般教育における教授学習課程の分析をした結果ではあるが、「よい授業」と判断された授業の特質を因子分析した結果、抽出された因子は5つで、教師のパーソナリティ因子と授業設計因子、学生の意欲因子、教え方の技術因子、集団過程因子である。教師のパーソナリティ因子では主に教師の人間性が、教え方の技術因子では、教師の発声技術や板書の技術以上に、ビジュアルでわかりやすい内容の提示が評価のポイントになっているという。

国際学部学園生活調査では、授業を受ける上での困難として、「授業の内容に興味を持ちにくい」(54.6%)や「先生の声や黒板の字が小さくてノートが取りにくい」(38.9%)、「話にまとまりがなく全体をつかみにくい」(34.8%)が上位に挙げられていた。そして、授業への要望として、64.7%の学生が、「プリントやビデオを活用するなど授業方法をもっと工夫して勉強意欲が高まるようにしてほしい」を挙げている。このように、学生は教授法のより一層の改善を求めている。教授法の改善が学習成果の向上をもたらすことと期待できよう。

3. 勉強会・研究会の支援

大学生活における比重は、「クラブ・サークル」の方が「友人との交際」よりも低い（表4参照）。私大連の調査によると、クラブ・サークルに参加している学生の方が充実感をもって学生生活を送っている¹⁰⁾。このことは、学園祭での学生に様子を見てわかる。教室では見ることができない澁刺とした様子や堂々とした振る舞いを見ることができよう。課外活動も学生が成長する場であるので、より一層充実するよう支援することが必要である。

特に、国際学部らしい勉強会や研究会の育成が望まれる。情報学部の専攻領域に関連したクラブ・サークルとしては、アマチュア無線部や映画制作研究部、広告研究会、放送部などがあり、国際学部の開設によって新しい勉強会や研究会が誕生することを期待していた。しかし、4年の間に生まれたのはボボモ・インターナショナルとESS、そして、大学院進学のための勉強会だけであり、専攻領域に直結した研究会はまだ誕生していない。研究会の世話を他大学では助手や大学院生がみているが、国際学部にはそのどちらもないということが、その原因のひとつに挙げられよう。学生の指導面からも、助手の採用や大学院の設置が望まれる。

また、和光大学で実施しているような学生の研究に対する助成¹¹⁾を、文教大学国際学部でも講じるなどして、学生の自主的研究活動を支援・奨励すべきであると考えられる。

4. 継続調査の必要

教育効果を判定する場合、さまざまなタイムスパンにそって行う必要がある。原は、授業時間内での変化から卒業後の社会における活動まで、教育効果判定を時間軸にそって整理している¹²⁾。

設置趣旨の後段「有為の人材を養成する」が達成できているかどうかを判定するには、卒業後の社会的活動の評価が必要となる。また、大学生生活の評価をする上でも卒業生の意見を聴取することは重要である。

卒業生を対象にした調査としては、国大協¹³⁾やICU¹⁴⁾¹⁵⁾、和光大¹⁶⁾などでの先行事例がある。

V まとめ（要約）

国際学部の4年間の教育から学生が何を学んだかを質問紙調査によって、明らかにしようと試みた。調査対象は卒業を目前に控えた一期生全員237人で、調査期間は、1994年1月12日から3月19日である。84人（35.4%）から有効回答が得られた。

調査結果は次の1から6のようにまとめられる。

1. 「自分にとって得るところのあった授業」でもっとも多いのは、専門科目であり、75.7%（174件）を占める。
2. 「得るところのあった授業」を受講した理由は、必修科目以外では、講義内容と教員の魅力が主要な選択理由となっている。
3. 「どんな点で得るところがあったか」では、全体では、「専門的知識を得ることができた」（129件、30.3%）がもっとも多く、次いで、「社会ないし人間に対する見方が変わった」（70件、16.4%）、「教員と知り合えた」（62件、14.6%）、「研究の方法や態度を学んだ」（58件、13.6%）であった。
4. 国際学部で学んだことをひとことで表現させたところ、73件の回答が得られた。それらは主に3つに分類できる。それは、「国際的視野を養えた」、「学問の方法と態度を学んだ」、「人

と人とのコミュニケーション」である。

5. 「大学生活で比重の高かった活動」の第1位は「友人との交際」(30人, 35.7%)であり、次いで「クラブ・サークル」(23人, 27.4%), 「授業」(13人, 15.5%)である。授業の比重はあまり高くなく、第3位までの累積でも50人(59.5%)である。

6. 大学の授業への要望及び、改善への提案についての記述回答は67件得られ、大体4つに分類できる。それは、語学教育と資格取得、カリキュラム全般、授業の方法に関することである。

調査の結果、学部設置趣旨の「国際的問題や地球的課題を解決するために必要な実践的かつ学際的な知識体系を学生に学習」させることを達成していると判断できよう。しかし、より高い教育成果を挙げることができるよう不断の検討と努力が必要である。以下の4点について検討した。

1. 教育過程編成上の問題

専門教育の目的は達成していると判断できようが、しかし、学生の授業理解度に関しては自由記述回答から推察する限りでは、十分とは言えないようである。また、一学部一学科の特長を活かした学問体系の構築と教育の実践が求められている。

調査結果をみる限りでは、一般教育科目の評価が高くない。主に、低学年の学生を対象にし、大教室での授業という教育環境の劣悪さも原因しているであろうし、何よりも「漢方薬」の効き目をみるのには、4年間でも短いかも知れない。国際学部のような人文社会系の学部における自然系科目の位置づけや教育内容・方法を検討する必要があると思われる。また一般教育の在り方について見直すことが必要であり、具体的には、スキルスタディや補償教育、高学年履修の科目を開設することなどの検討が急がれる。

2. 教育方法上の問題

「得るところがあった授業」について、特に印象に残ったことを自由記述で求めたところ、教授法の工夫と教員の姿勢・人柄に関する回答が多かった。学生は教授法のより一層の改善を求めているし、教授法の改善が学習成果の向上をもたらすと期待できよう。

3. 勉強会・研究会の支援

特に、国際学部らしい勉強会や研究会の育成が望まれる。そのための方策として学生研究助成制度の設置を提案した。

4. 継続調査の必要

設置趣旨の後段を評価するには、卒業後の社会的活動の評価が必要であるし、卒業生による学生生活の評価も重要である。

註および文献

- 1) 小林勝法・荒井宏祐ほか, 国際学部学園生活調査報告, 文教大学国際学部紀要4, 104—135, 1994
- 2) 和光大学「大学入門期教育の実践的研究」グループ, 平成2年度文部省科学研究費補助金一般研究(A)「大学教育の実践的研究」報告書——学生からみた大学教育——, 1991
- 3) 一期生の授業満足度は高い順に、専門教育(42.7%), 保健体育(41.2%), 第二外国語(38.2%), 英語(29.8%), 一般教育(19.1%)である。
- 4) 文部省, 「学生の生活等の実態に関する調査」(概要), 1990年10月
- 5) 保健体育に関しては、次の文献を参照されたい。
小林勝法・武藤幸男, 保健体育に関する意識調査報告, 文教大学情報学部情報研究14, 185—195, 1993
- 6) 片岡徳雄・八並光俊, 高等教育における教授学習過程の研究——学生評価を中心に——, 一般教育学会誌9

- (2), 44—50, 1987
- 7) 科目区分名としてはカリキュラム上から消えたが、一般教育の理念が必要とされなくなったわけではないので、この用語を使用する。
 - 8) 坂井昭宏，一般教育学会の改善と方途について，1994年度一般教育学会課題研究会講演要旨集，43—44，1994
 - 9) 扇谷尚，一般教育のパラダイムの変化に対応する学会運営，1994年度一般教育学会課題研究会講演要旨集，41—42，1994
 - 10) 日本私立大学連盟学生部会（編），キャンパスライフこの20年，開成出版，1992，73—75
 - 11) 梅根悟，小さな実験大学，星林社，1975，60—63
 - 12) 原一雄，教師自身による自己診断，一般教育学会誌14（2），25—27，1992
 - 13) 国立大学協会，学部卒業生を対象とする「大学教養課程教育の内容と改善に関するアンケート」調査報告書，1986
 - 14) 土屋静子・原一雄，大学教育の総合評価その3・卒業生による学生生活の評価，ICU教育研究15，49—85，1971
 - 15) 原一雄・大井直子ほか，ICU在学経験の評価——1986年度追跡調査，ICU教育研究31，51—78，1989
 - 16) 和光大学「大学入門期教育の実践的研究」グループ，卒業生から見た大学教育——和光大学卒業生の追跡調査その1——，1990

資料1

国際学部の教育の総合的評価に関する調査

みなさんは、国際学部の1期生として、教員とともに国際学部を創ってきました。今後の国際学部の教育をより一層充実させるために、みなさんの意見は大変参考になります。4年間の大学生活を振り返って、国際学部の教育について率直にお答えください。卒業を前にして、冷静なそして総合的な判断ができるものと期待しています。

1994年1月 国際学部大学教育研究会

1. 今まで受けた授業のうちで、自分にとって得るところのあった科目名と受講した学年を専門、一般、語学、体育等を問わず三つあげて下さい。(特になければ無記入、Q6へ) →

2. なぜその授業を選択しましたか。番号で記入して下さい。(複数回答可) →

- ①必修だから
- ②講義概要をみて
- ③友人・先生等から薦められて
- ④先生が面白そう
- ⑤時間割が空いてた
- ⑥単位が取りやすそう
- ⑦その他(具体的に)

3. どのくらい出席しましたか。 →

- ①ほとんど毎回
- ②7から8割
- ③5から6割
- ④半分以下

4. どんな点で得るところがありましたか。それぞれに記号を入れ、できれば少しくわしく書いて下さい。(複数回答可) →

- ①専門知識を得ることができた
- ②言葉(外来語)を修得できた
- ③研究の方法や態度を学んだ
- ④社会ないし人間に対する見方が変わった
- ⑤良い友人を得た
- ⑥教員と知り合えた
- ⑦その他(具体的に)

5. その他、とくに印象に残ったことがありましたら書いて下さい。 →

6. あなたが国際学部で学んだことをひとことで表現して下さい。

7. また、あなたの大学生活において比重の高かったものを上位からあげて下さい。(例: 1. 授業、2. クラブ・サークル、3. アルバイト、4. 友人との交際、5. 趣味、6. etc)

1位 _____ 2位 _____ 3位 _____ 4位 _____ 5位 _____

8. 大学の授業の内容ややり方について、もっとこうであって欲しい、こうあれば良いと思うことがあったら、何でもまたいくつでも書いて下さい。(スペースが足りなければ裏に書いて下さい)

9. 性別 (男、女) 10. 所属学系 (文化、関係、経済) 11. 受験した入試 (推薦、学力、留学生・帰国子女)

資料2

Q6. あなたが国際学部で学んだことをひとことで表現して下さい。(標本番号, 回答, 学系, 性別)

1. 国際的視野で物事を見たり考えたりすることが出来た。またTV以外の情報を多く得ることができた。“歴史は作られている”と強く感じた。(文化学系, 男子)
2. ゼミの研究を通じて自分の考えを発表できてよかったと思う。(文化学系, 男子)
3. 国はいろいろだね!(文化学系, 男子)
4. 浅く広く何でも。(文化学系, 男子)
5. 特になし。(文化学系, 女子)
6. 国際。(文化学系, 女子)
7. 臨機応変な頭の回転と行動力。(文化学系, 女子)
8. 外国人に慣れた。(文化学系, 女子)
9. のんびりすること。(文化学系, 女子)
10. 自分の意見をしっかり持つ。(文化学系, 女子)
11. 相手(国・人)を受け入れる事で, 世界が広がっていく, という事です。(文化学系, 女子)
12. 視野が広がった。研究, 発表の仕方を覚えた。(文化学系, 女子)
13. 人間。(文化学系, 女子)
14. 無記入(文化学系, 女子)
15. 英語じゃないことは確かです。(関係学系, 男子)
16. ある事実を表面的でなく深く掘り下げることによって, ちがった一面が見えてくる。物事を簡単に決めることはよくない。(関係学系, 男子)
17. 私はゼミナールでの影響力(先生に対して)があまりに大きく, ゼミナール, それに関する上の二つの授業が本当に学んだと言える。(関係学系, 男子)
18. 人生について。(関係学系, 男子)
19. アメリカ外交の偉大さ。(関係学系, 男子)
20. 英語を多く学んだことにより広い目で世界を見れるようになった。(関係学系, 男子)
21. もっと世の中を見ろ。(関係学系, 男子)
22. 世界中の色々な国を知った。(関係学系, 男子)
23. 世の中にはいろいろな人間がいることを知った。(関係学系, 男子)
24. 無記入(関係学系, 男子)
25. 無記入(関係学系, 男子)
26. 国際的視野。(関係学系, 男子)
27. 人と人とのコミュニケーション。(関係学系, 男子)
28. 英語をもっと学び, 世界を歩いてみたい。(関係学系, 男子)
29. 将来, 役に立ちそうもないように思えるが, 自分が役立たせようと思えば立たせられることを教えてくれるところで, 自分の取り組み態度というのを学んだ。(関係学系, 男子)
30. 物事を多角的に見るということ。(関係学系, 男子)
31. 世界へ進出するための基礎。(関係学系, 男子)
32. 真面目なこともくだけたことも切なさも学べた気がします。(関係学系, 男子)
33. 人間愛。(関係学系, 女子)

34. 国際社会の本当の意味。国際人としての考え方、ものの見方。日本人を見つめ直す。(関係学系, 女子)
35. 国際性。(関係学系, 女子)
36. 世界の様々な地域でおきている事象についてのいろいろな角度からの見方。(関係学系, 女子)
37. 無記入(関係学系, 女子)
38. 日本人という肩書きは当然のように思っていたが、自分は自分ということを知ったし、知らない国、知っていた国の事情・歴史・文化などたくさんの角度から見る事ができた。(関係学系, 女子)
39. 柔軟な知識の持ち方を学んだ。(関係学系, 女子)
40. 幅広い国際的視野を養うことができた。(関係学系, 女子)
41. 外側を知ろうとすることで、内側を改めて知るに至った。(関係学系, 女子)
42. 無記入(関係学系, 女子)
43. “自分らしさ”の発見。(関係学系, 女子)
44. レポートの書き方、ものの(時事問題などの)とらえ方。(関係学系, 女子)
45. 人間関係など。(関係学系, 女子)
46. 「いろんな人がいるんだなあ」という事(知識の面でも、感性の面でも)。(関係学系, 女子)
47. 集団の中で自分をどう表現するか。(関係学系, 女子)
48. 無記入(関係学系, 女子)
49. 世界の動きに敏感になったような気がする。(関係学系, 女子)
50. 今までとは社会に対する見方が変わった。(関係学系, 女子)
51. 物の見方が大分、拡がったと思います。色々な見地から見られる様になりました。(経済学系, 男子)
52. 語学が4年間に多く存在し、特に、外国の先生と直接触れあい、話をする事で、表現力の違いや考え方の違いを学ぶことができた。(経済学系, 男子)
53. 単位を取る難しさ。(経済学系, 男子)
54. 他の学部と変化がないような気がする。(経済学系, 男子)
55. 無記入(経済学系, 男子)
56. 地球上の特色・英語・現在の国際関係について。(経済学系, 男子)
57. 語学と国際時事。(経済学系, 男子)
58. 英語。(経済学系, 男子)
59. 語学。(経済学系, 男子)
60. つまらない授業は時間のムダ!(経済学系, 男子)
61. 講義内容がう・す・い。(経済学系, 男子)
62. 国際学部といっても別に変わったことはなかった。大学に対して期待していなかったので、私は学んだことは何もなかった。(経済学系, 男子)
63. 我身の糧。(経済学系, 男子)
64. 自分がやる気にならなければ何も学べない。(経済学系, 男子)
65. 興味をもたなければ、何も知識も得ることのできない学部。(経済学系, 男子)
66. 特にない。(経済学系, 男子)

67. 多くの先生のすばらしい話が聞けた。(経済学系, 女子)
68. 日本を中心とした海外 (特に先進国) との比較の授業が多い。(経済学系, 女子)
69. 観光産業全般について。(経済学系, 女子)
70. 無記入 (経済学系, 女子)
71. いろいろな世界があり, 又, それだけの考えがあるということ。(経済学系, 女子)
72. 経済や文化, 環境などについて日本だけでなく世界的な視野で, 考えられることができた。
(経済学系, 女子)
73. 無記入 (経済学系, 女子)
74. 日本の世界から見た立場や, 他国との文化, 経済, 政治の比較。(経済学系, 女子)
75. 自分の可能性に向かって努力すること。(経済学系, 女子)
76. 全体として教養的な知識を得たにとどまる。(経済学系, 女子)
77. 経済系へ進んだので, 外国の経済状況とちょっとした英会話。現行の社会についても学んだ。
(経済学系, 女子)
78. 国際的視野のもち方。(経済学系, 女子)
79. 留学生の人達がいるので, 自然と他の国の人々と話すことができる。英語は先生によって違うので, 大変為になった英語授業は3つ位です。(経済学系, 女子)
80. 英語が充実していた。少人数制だったので, 先生に顔と名前を覚えてもらえた。(経済学系, 女子)
81. 国際的な現状を勉強し, 古典や英文を習うよりも, 今がわかってよかったような気がする。
(経済学系, 女子)
82. 国際の中において, 広く浅く, 様々な知識を学ぶことができたと思う。深く入ることはなかったが, 広範囲において, 世界の中の日本であると思った。そして, 改めて, 英語が今後の社会で重要であると感じた。(経済学系, 女子)
83. 将来がある学部だから。(経済学系, 女子)
84. 勉強不足。(経済学系, 女子)

資料3

Q8. 大学の授業の内容ややり方についての意見・要望（標本番号，回答，学系，性別）

1. 英語の授業は多ければいいと思えない。量よりも質。リーダーのようなものはあまりいらない。LL教室をもっと増やした方が良い。(文化学系，男子)
2. 教職を取れるようにしてほしい。自分は教員志望だった。(文化学系，男子)
3. いすが座りづらい。(文化学系，男子)
4. 少人数で討論を増やす。発表の仕方たたくき込む。(文化学系，女子)
5. 資格取得ができる授業や就職に生かせるような内容の物がはやくい学年のうちから，ひらいてほしい。国際学部で何を学んだかがはっきり自覚できるようなものがほしい。(文化学系，女子)
6. 英語の授業では，もっと実践的なものが多ければ良かったのに，と思う。(文化学系，女子)
7. 第二外国語が2年間で終わりなのがっかりした。3・4年次も履修できるようにしてほしい。(文化学系，女子)
8. 授業の内容についてはけっこうみんなよかったと思うので，あとは学生の問題だと思う。(文化学系，女子)
9. ゼミが5限にあったのはつらかった。(文化学系，女子)
10. 生徒同士がある課題について話し合える場を少しずつ作ってほしい。(文化学系，女子)
11. 無記入 (文化学系，女子)
12. 第二外国語の力をもっとつけたかった。2年次でとれる授業が少なすぎる。又3・4年で面白い授業があるのに忙しくてとれないのが残念だった。特に4年生になってから面白そうな授業が多く就職活動で出られないのが残念だった。一般教養が全部つまらなかった。(文化学系，女子)
13. 履修単位について（これはここにかんざんできるとか）明示してほしい。いろいろな噂がとんで大変だった。(文化学系，女子)
14. 少人数で生徒がもっと参加できる授業を増やした方がいい。語学は正直なところあまり身についたとはいえなかった。授業のレベルが低く，ものたりなさも感じた。入学してすぐから，レポートの書き方とかの基本的な勉強の仕方を教えてほしい。特徴のある学部になってほしい。(関係学系，男子)
15. 全体的にユニークな先生が多いのでユーモアと柔軟な思考力を多く教えてほしい。(関係学系，男子)
16. 文化人の特別授業など，かわったこともたまにはしてほしい。(関係学系，男子)
17. 一本調子で講義する先生がいるがあれはやめてほしい。(だいこん役者じゃないんだから) もっとめりはりをつけ，訴えるような講義をしてもらいたい。(関係学系，男子)
18. ○○先生以外の教授総いれかえ，駐車場の○○と○○をけせ。(関係学系，男子)
19. 一般教育や専門科目の中で不要だと思うものがある。(関係学系，男子)
20. 無記入 (関係学系，男子)
21. やることをやれば，結果が必ずついてくることを気づかせてほしい。(関係学系，男子)
22. 無記入 (関係学系，男子)
23. もっと熱く燃えるような授業であって欲しい。(関係学系，男子)
24. 無記入 (関係学系，男子)

25. 無記入 (関係学系, 男子)
26. 無記入 (関係学系, 男子)
27. もっともっとスポーツに力を入れてほしい, そして, バンフォード先生の英語みたいに, 早い時期から, 色々な講座を設けてほしい。(関係学系, 男子)
28. 単位を取るために出ていた授業があった。今思えば時間を無駄にしたと思うぐらいひどい授業もあった。(関係学系, 男子)
29. 講義中に質問が生じた場合, すぐに学生側からの質問が出来るものをふやして欲しい。教授の一方的な話ではムズムズしてしまったり, 眠くなってしまったりする。(関係学系, 男子)
30. 大学に入ってまで小学生並みの授業をうけるとは思わなかった (ひとりだけ)。(関係学系, 男子)
31. 授業のやり方をもっと興味あるものにして欲しかった。休講の場合, 代理の講師が欲しかった。(関係学系, 男子)
32. ケース・スタディを増やして欲しい。(関係学系, 男子)
33. すばらしい人間的な先生たちに, すべておまかせしていいと思う。(関係学系, 女子)
34. 英語授業が英語で使う直接の原因とはならず, 英語力を向上させるものでもない。(関係学系, 女子)
35. とりたい授業が重なってとれなかった科目があったのもう少し時間割を考えてほしい。(関係学系, 女子)
36. アドバイザー制度をもっとうまく活用できないでしょうか……? (関係学系, 女子)
37. 一般教養は仕方がないのかもしれないけれど, 毎年同じ授業ばかりしないで, どんどん新しいもの (現在世の中で起きていること) を取り入れて欲しい。体験授業もあれば面白かったと思う。(関係学系, 女子)
38. アジア系の留学生だけでなく, アメリカやヨーロッパ, オーストラリアなど, 他の地域からも入学してほしい。ディスカッション形式の授業が増えてもいいと思う。海外研修を制度化したらどうか。(関係学系, 女子)
39. 第二外国語が週3回位が適度。ゼミこそ5限は, やめてほしい。(関係学系, 女子)
40. 第二外国語は週2~3回くらいあると良いと思う。ゼミの5限はやめた方が良い。(関係学系, 女子)
41. 国際学部は英語の時間数が多いのですから, もっと有効に授業をすべきだと思います。時事英語はとても大切なので, 1年生の時からあると良いと思いました。(関係学系, 女子)
42. 週の前半がヒマで後半が空がないような変な授業割はやめてほしい。授業に対しての単位設定がひじょーに変なので, 改善してほしい。まともに授業やらずに世間話しておわりにする先生なんかイラナイ。(関係学系, 女子)
43. 4年次に受講したい授業が沢山あるのだが, 4年は就職活動の比重が大きく, そう学校にもくることができない。4年の講義を3年にまわしていただけたらと思う。英語の授業が多いのだが, (私の場合), 4年の今より1年生のときのほうが, まだ英語ができたような気がする。(関係学系, 女子)
44. 無記入 (関係学系, 女子)
45. 無記入 (関係学系, 女子)
46. もっと生徒を熱くさせる〇〇先生のような名物先生がいてもいいと思う。〇〇先生のように,

- 実社会で役立つ授業（もしくは〇〇先生）が多くいてもよいと思う。（関係学系，女子）
47. 語学の授業の強化。第二外国語の種類を増やすなど……。 （関係学系，女子）
 48. 無記入（関係学系，女子）
 49. 無記入（関係学系，女子）
 50. 無記入（関係学系，女子）
 51. 授業についてですが，ある程度の自由性を重んじてもいいと思います。（経済学系，男子）
 52. 無記入（経済学系，男子）
 53. 土曜日の必修はなくして欲しかった。（経済学系，男子）
 54. 無記入（経済学系，男子）
 55. 無記入（経済学系，男子）
 56. 大学の授業ははっきりいってつまらなすぎた。もっと先生一人一人がたのしい授業そして内容ある授業をしてほしかった。（経済学系，男子）
 57. わかりやすくしてほしい。（経済学系，男子）
 58. 学生をひきつける授業をやってほしい。（経済学系，男子）
 59. 学生がもっと真剣になるような授業をやって欲しい。（経済学系，男子）
 60. 学生が“授業に出たい”と思うような授業をしてほしい。（経済学系，男子）
 61. 各授業の内容が大ざっぱで，内容がとてもうすく感じた。特に経済系は「これ以上深くやると時間がなくなりますから，やりません」とのセリフよく聞かされ，内容の方も，受験勉強以下という内容もありました。（経済学系，男子）
 62. 英語の授業は非常に悲しいものがあつた。特に外国人の先生の授業にはがっかりした。もっと会話を楽しむような授業にすればいいと思う。高校の授業の方がもっとためになったような気がするし，高校の授業とあまり変わらなかった。（経済学系，男子）
 63. もっと学生を引きつける環境や魅力（講義内容）を改善してほしい。（経済学系，男子）
 64. 出欠席で生徒をあやつるのは，やめてほしい。先生に対して個人的なうらみはやめてほしい。4年生時に授業の少ない人は学費をまけてほしい。（経済学系，男子）
 65. 広く浅くが学部のもっとなのかもしれないが，浅すぎておもしろくない。先生に魅力のある人が少ない。（経済学系，男子）
 66. 出席で大半の教科が評価しているので納得がいかない。（経済学系，男子）
 67. 4年生の成績発表を2/22にするのはおかしいと思う。普通この時は旅行に行っている。日を変えるべきです。教務課の男の上の方は態度が悪い。（経済学系女子）
 68. 4年での選択の授業が多いので，もっと1～3年の間に強勉できればゆっくり履修できたのに。取りたいものが他の授業と重なったり，自分のやりたいこととは関係のないものを勉強させられたようなものもあった。（経済学系，女子）
 69. カリキュラムの改正は絶対必要だと思う。実習先なども確保してあげるべきだと思う。せっかくユニークな授業を持っているのだから，更により国際学部をつくってほしい。（経済学系，女子）
 70. 先生が厳しく，毎回出席をとるとなれば，みな出席するだろう！ しかし，そういうやり方では何も身につかないと思う。（経済学系，女子）
 71. 無記入（経済学系，女子）
 72. 自分が取りたい授業が重なる場合があるので，時間割をもう少し考えてほしい。経済の授業

- がとても難しかった。経済学部ではないので、やさしく説明してください。(経済学系, 女子)
73. 英語の授業が少ない。もっと徹底した英語, 外国語教育をしてほしい。同時通訳室を使用するなど, 設備をもっと有効に使わせてほしい。経営系の授業も, もっと増やしてほしいと思う。(経済学系, 女子)
74. 無記入 (経済学系, 女子)
75. 先生方には, 学生の可能性をできるだけ伸ばそうとする姿勢がとてもあると思ったので, 我々の経験を生かしたより一層の発展を願っています。(経済学系, 女子)
76. 専門科目でも一般教養科目の羅列といった内容の授業が多かったように感じた。2年からの専門科目に期待していたが, 一つ一つの科目が他の科目とつながらず体系的に学ぶことができなかった。積み重ねがなく, 専門的知識が身に付かない……, そんな感が強かったです。一年次の必修科目などは全く一般教養と変わりなく, 専門科目の基礎科目にはならないと思われます(基礎科目が不備なのは)。自分の興味ある学問に関する情報・機会の場を, 大学によりもっと豊富に提供されるべきではないでしょうか。最後になりましたが, 国際学部においてその専門知識をより体系的に学べる大学に, との願いを込めて, 今後の文教大学国際学部の発展に期待いたします。(経済学系, 女子)
77. 英語について言うと担当の先生によって内容がまったくちがうということ。意味のない単純作業の授業が多かったことがいつもいやだと感じています。(経済学系, 女子)
78. 英語は数が多いだけで, けっこう役に立つかなと思う授業や, ただ先生の訳だけきいていればいいような授業があった。もっと内容の濃いものであればいいと思う。(経済学系, 女子)
79. 英語の先生が, 人によって大変やり方が違うので, 良い先生のやり方にそえた方が良いと思います。学系別の必修の為にとりたい授業がとれなかった。(経済学系, 女子)
80. 学系の分け方にあまり違いが見られない。(経済学系, 女子)
81. 国際経済学系の授業は, 経済学が難しくて全然わからなかった(特にマルクス経済など)。だから, もっとわかりやすい授業を考えた方がいいと思う。学生達がついてこれない。(経済学系, 女子)
82. 時間割の組み方が悪く, とりたかった授業がとれなかったりと, 一年次から自分の興味ある科目をとることができなかった。私達が卒業して一循するわけだから, もう少し, 皆平等に選べるように組み立ててほしい。(経済学系, 女子)
83. 無記入 (経済学系, 女子)
84. もっと頭を使わせる授業がほしい。国際問題は演習してみたらきっとおもしろくて忘れられないと思う。例えばこのグループはイラクとして, あのグループはクウェートでみんな資料をそろってお互いに戦ったらすごくおもしろいと思う。(経済学系, 女子)